

港のたより～「高知新港」

高知の海の玄関である高知新港は、車で約15分の位置に高知自動車道「高知IC」があり、地元高知の経済を支える海の物流拠点であります。重要港湾に指定されている高知港で、平成10年から供用を開始された「高知新港ターミナル」を高知マリナーズ㈱の久保田専務に案内していただきました。

岸壁に立つと、湾内をはさんで西側に坂本竜馬の銅像が立つ、月の名所として有名な桂浜が見えます。現在、同ターミナルで供用されているのは水深12mと8mの2つの岸壁があり、どちらも長さ240m…コンテナ荷役専用のクレーンで30t吊りのガントリークレーンが1基、背後地にはコンテナヤードや園芸野菜倉庫設備が整っています。同岸壁には大型豪華客船をはじめ、自衛艦、石炭船、コンテナ船などあらゆる船舶が寄港しています。



[高知新港ターミナルのガントリークレーン]



[ターミナル内コンテナヤード]



[定期航路のコンテナ船]

視察当日、韓国の定期航路を結んでいる興亜海運（Heung-A-shipping）のコンテナ船（320TEU）が入港、繋船作業を見学させていただいた。高知港には毎週木曜日の寄港



[係留ビット]

で国内では清水～豊橋～四日市～高知～釜山のウイークリーサービスを就航しており、主に雑貨類を輸入している。実は左写真のように岸壁ビットを四方に囲み30cm近く盛ってあるのに気付いた。…これは同岸壁上から1m以下が短冊状（波消し構造）になっており同岸壁が3万トンの供用補強のためビットの工夫がなされたものでした。

2009.9.3.渡辺、三木